

## 「技報」の発刊に寄せて

名古屋大学全学技術センターは、平成 16 年 4 月に設置され、試行期間、定員削減の時期を経て平成 21 年 4 月より 4 技術支援室、6 技術系の組織に改組されました。そして平成 27 年 4 月より名古屋大学設備・共用支援室が設置されました。工学研究科・工学部技術部は、工学研究科・工学部からの要請に基づき、全学技術センター工学系技術支援室から派遣・配置された技術職員の組織「工学研究科・工学部技術部」として、主たる業務先である工学研究科・工学部のみならず関連研究施設・センター、全学の教員各位のご理解と連携により教育および研究に対する技術的支援を行っています。

技術部では、機械加工、回路製作や学内外ものづくり講座、サーバ管理や Web 管理・メンテナンス、情報セキュリティのインフラ整備、労働安全衛生法、放射線に係る法律などに基づく管理、環境測定、安全衛生巡視や安全教育などインフラ整備、試料の分析、観察や分析機器の性能維持管理などの技術支援を行ってきました。これを支えてきた熟練した技術、経験の豊富な 50 歳代の技術職員が全体の 4 割弱を占めており、やがて定年を迎えます。ここ数年が組織の将来を考える重要な時期と考えます。各技術系の集中化により、これまで教育・研究支援業務に関して培ってきた技術を継承するための技術研鑽、講習会や講座等の研修を企画・実施してきました。指導する技術職員のマネジメント力や若手職員の指導育成による技術力アップが培われつつあると感じています。今後の先端研究と教育を支援する技術レベルの向上・高度化と技術の継承を持続的に行うため、これまで以上に積極的に研修や研鑽を組織的、計画的に進めてまいり所存です。関係各位のより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この「技報」は、工学研究科・工学部技術部の平成 27 年度における諸活動をまとめたものであり、部局内外の教員並びに関係する皆様に技術部の活動内容を発信するものです。ご高覧いただきご意見を賜れば幸いです。

最後に、本誌の発行にあたって、多大なご尽力とご支援を頂きました工学研究科長・副研究科長をはじめ、教員、事務職員、その他の関係各位には心よりお礼申し上げます。

平成 28 年 2 月

工学研究科・工学部 技術部  
(全学技術センター工学系技術支援室)  
室長 鷲見高雄